

様式4 5か年のまとめ実施概要

瀬谷区地域子育て支援拠点事業 5か年のまとめ 実施概要

対象事業	瀬谷区地域子育て支援拠点事業
対象期間	令和3年度～7年度(5か年度)
事業の実施者	NPO法人さくらんぼ 瀬谷区こども家庭支援課
実施目的	1 今期5か年の事業を振り返り、成果や課題、今後の方向性などを整理します。 2 市民協働事業の実践を通じて経験を蓄積し、その後の市民協働や市民協働事業に活かしていくため、また、当該協働事業の当事者だけでなく、多くの市民等の協働への参加意欲を高めるため、当該評価を公開し、透明性を高めます。
実施時期	令和7年7～8月
実施について	<p>拠点事業は、区と運営法人との協働により進めています。毎年度、事業ごとに定めている「目指す拠点の姿」に沿って役割分担し、行動計画を立て、年度末には「振り返りの視点」に沿って取組の振り返りを行いながら事業を進めてきました。また、中間期には「有識者を交えた事業評価」を実施し、事業の運営・管理にフィードバックして拠点運営状況の向上を図っています。</p> <p>今回は、中間期に行った「有識者を交えた事業評価」にその後の事業振り返りを加え、今期5か年のまとめとしました。</p> <p>【参考】 拠点の7事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 乳幼児の遊びと育ちの場及びその養育者の交流の場の提供（親子の居場所事業） 2 子育てに関する相談及び関係機関との連携に関すること（子育て相談事業） 3 子育てに関する情報の収集及び提供に関すること（情報収集・提供事業） 4 子育てに関する支援活動を行う者同士の連携に関すること（ネットワーク事業） 5 子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援に関すること（人材育成、活動支援事業） 6 地域の住民同士で子どもを預け、預かる支え合いの促進に関すること (横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業) 7 子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関すること（利用者支援事業）

様式1－1 地域子育て支援拠点事業評価シート

1 親子の居場所事業						
目指す拠点の姿			(参考) ①2期目振り返りの課題と ②R5事業評価での課題		自己評価 (A~D)	
			法人	区		
①利用者を温かく迎え入れる雰囲気のある場になっている。			①区と拠点で「瀬谷区子育てに関するアンケート調査」で把握した、利用しない人のニーズの分析を行い、継続的にすり合わせをする必要がある。 ②・コロナ前の状態に戻すのではなく、今の親と子の声を大切にして、新たな取り組みを進める必要がある。 ・子ども本来のニーズの把握をより意識する。		A	A
②多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場になっている。					A	A
③養育者と子どものニーズ把握の場になっている。					A	A
④親(養育者)自身が親として育ち、また子どもが育つ場になっている。					A	A
評価の理由(法人)						
(主なデータ)						
ひろば利用者 子ども延べ人数	R2年度 6,126	R3年度 6,734	R4年度 7,391	R5年度 7,534	R6年度 6,885	
ひろば利用者 子ども延べ実人数	R2年度 2,275	R3年度 3,031	R4年度 3,354	R5年度 3,636	R6年度 3,408	
上記は「月毎の実人数×12か月」(R6年度がこの数字のみの集計であるため)						
父親来館人数	R2年度 414	R3年度 460	R4年度 456	R5年度 556	R6年度 627	
人数	7.8%	7.9%	7.1%	8.5%	9.3%	
【出張にこてらす 開催実績】	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
回数	実施なし	18 (阿11下7)	16 (阿12下4)	16 (阿10下6)	15 (阿10下5)	
(場所別回数)		69 (阿36下33)	93 (阿51下42)	125 (阿78下47)	149 (阿116下33)	
参加組数 (場所別参加組数)						
【プレママ&プレパパ プログラム実来館人数】	R2年度 6	R3年度 14	R4年度 46	R5年度 61	R6年度 60	
プレママ	4	8	40	55	63	
合計	10	22	86	116	123	
特記事項	R2.4~8休				プレパパ向け プログラムを新設	
①みんなで子育てる場 ●利用者同士のたすけあい <ul style="list-style-type: none"> 新規利用者に常連利用者がひろばの使い方を教える姿があり、利用者同士が自然に交流し、助け合いのきっかけになっている。気軽に声を掛け合うことができ安心して過ごせる場となるよう環境を作っている。 ●利用者も一員 <ul style="list-style-type: none"> 危険箇所チェックやひろばの片付けを利用者と一緒にを行うなど「ひろばはみんなで子育てる場」であることを意識して運営している。 ●多世代との交流促進 <ul style="list-style-type: none"> 学生や先輩ママ、高齢の方等の多世代のボランティアと親子との交流の場を提供し、世代を超えたつながりを作っている。これによって地域全体で子育てを支える雰囲気が醸成されるよう努めている。 ●交流の場の提供 <ul style="list-style-type: none"> 工作コーナーを常設するなど、利用者同士の交流のきっかけとなる場を設けている。 また、スタッフが地域情報や共通テーマを提供して養育者同士の自然な交流が生まれるようにつなげている。 ●コロナ禍の配慮 <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でも予約なしで気軽にひろば利用ができるよう、ひろばの混雑状況をSNSで発信したり、着替えやタオルの貸出方法を工夫して利用者が安心して訪れることができる環境を提供した。 						

様式1－1 地域子育て支援拠点事業評価シート

②養育者の多様性を意識

●多様なプログラムの企画

- ・来館のきっかけになるようパパやファミリー向け、プレママ・プレパパ向けのプログラムを定期的に開催し、さまざまな養育者が気軽に参加できるきっかけを提供している。

●外国籍利用者への配慮

- ・継続的に外国籍のスタッフを配置することで、外国籍の利用者からの相談が増えた。また、拠点HPに自動翻訳機能と外国人向けのページを増設し、外国人親子が利用しやすい環境を作った。ワールドファミリーデイは外国人向けだったものを交流プログラムに変えて相互理解を進められる取り組みとした。

●外国人先輩ママのボランティア参加

- ・外国人先輩ママのボランティア参加を募ることができ、同じ立場の親同士が交流できる機会を提供できた。

●祖父母との利用

- ・祖父母と子どもがひろばを利用する際、利用場面によってスタッフ側が配慮しており、利用が増えている。世代間のつながりを意識した運営をしている。

●出張にこてらすの実施

- ・拠点から遠くで来館が困難な地域では出張にこてらすを地域の担い手(ひろばのOGなど)とともに実施し、地域全体に子育て支援が届くよう努めた。

●育てにくさを感じている親子のサポート

- ・育てにくさを感じている親子のひろば(にこポンテ)を毎週木曜日に開催している。また、3月中旬から4月中旬の啓発期間を設け、利用者が子どもの育ちに関して考えたり、情報交換をしたりする機会を提供している。

□

③養育者と子どもの声を拾うひろば

●ニーズの把握と共有

- ・普段のひろば利用時の歓談の中からニーズを積極的に拾い、毎日の振り返りでスタッフ間で共有している。これをひろば運営に活かし、利用者の要望に応えられるよう努めている。

●アンケート結果の反映

- ・プログラム実施後に利用者にアンケートを取り、結果を区の定例会やスタッフ会議で共有している。それと合わせてプログラムの新設と改善に反映させることで利用者の期待に応える形を模索している。

●地域ニーズへの対応

- ・「拠点から遠い」、「近くに遊び場が少ない」など、利用者や地域の子育て支援施設のスタッフなどから把握した声を受け、阿久和、下瀬谷方面で「出張にこてらす」を開催している。拠点から遠い地域のニーズ把握の場になっている。

●乳幼児健診を活用したニーズ把握

- ・乳幼児健診などの機会を活用し、拠点利用者に限らず区内全体の養育者のニーズ把握に努めている。

●体を動かせる場と遊具の提供

- ・研修室(利用予定のない日)を「げんきっこテラス」として体を動かせる遊具を設置。子どもたちが自由に体を動かせる環境を提供している。R7年7月は92組、8月は107組の利用があった。

●外遊びの促進

- ・保育園のイベント周知に来所した園児達をプレイリーダー的に迎え入れ、ダイナミックな外遊びの手本となつてもらった。また、講師を招いての自然を感じる外遊び、花を植えようのプログラムも庭で展開、外遊びを誘発した。親が求める人工的なおもちゃではない自然の中での遊びを意識して提案し、子どもの遊びを広げた。

□

④親も子も育ちあうひろば

●親の育て方を尊重

- ・スタッフは過保護・過干渉することなく見守り、親自身の育て方を尊重している。子どもたちが自ら育つ力を応援する姿勢を大切にしている。

●年齢や個性の違いに気づける場

- ・年齢による遊び方や子ども同士の関わり合いを通して個性や成長の違いに親が自然に気付ける場となっている。

●共感しながら解決に向えるプログラム

- ・養育者のニーズから年齢別プログラムや悩み別プログラムを実施している。受け身型の講座ではなく、参加者や先輩ママが体験を語ることで親同士が共感し解決していく内容にしている。

●専門職による学び

- ・専門職が定期的にひろばに入ることで、養育者が学びの機会を得ることができ、より専門的なアドバイスを受けることができる場としている。これにより養育者の育児力を高める一助としている。□

様式1－1 地域子育て支援拠点事業評価シート

評価の理由(区)	
1 拠点の周知及び利用のきっかけづくり	母子手帳交付時や母親両親教室・赤ちゃん教室、母子訪問、こんにちは赤ちゃん訪問などの場面で拠点の役割等について案内した。にこてらす利用者アンケートにおいて、半数を超える約55%の利用者が区からのアプローチをきっかけに利用していると回答しており、必要な周知・きっかけづくりが行えている。
2 切れ目のない案内	妊娠後期のお便りや乳幼児健診、赤ちゃん教室、子育て応援イベントなど、各種区事業の場を活用し、妊娠期から未就学児の世帯まで切れ目なく拠点の案内を行った。
3 利用者のニーズ把握	個別のプログラムのアンケート結果についての共有、利用者アンケートにおける適切なニーズ把握につながるような設問の検討、乳幼児健診受診者を対象とした利用者以外のニーズ調査など、拠点と連携しながら必要な支援を行った。
4 育ちの場としての環境の整備	拠点が育ちの場としての機能を発揮できるよう、情報の共有や具体的な事例に対する助言などのソフト面の支援のほか、不具合が発生している設備の修繕にかかる関係機関との調整などハード面の支援を行った。
拠点事業としての成果と課題	
(成果)	
・父親の育児参加が進んでおり、プレパパ向けや父子向けプログラムを増やしてきた。そこからのつながりもあってか父の来館が増え、土曜の利用で最多の20人の日もあった。また、育児休暇を取得した父親による平日の利用も見られる。	
・妊娠期プログラムの参加者が出産後も継続利用し、次のプレママ・プレパパと自然な交流を持つ姿が見られ、良好な子育ての循環が形成されている。	
・頻度高く利用する方たちが愛着を持って来所し、ボランティア等で積極的に参加する姿がある。	
・パマトコやSNSを活用し、子育て家庭(外国人ファミリーも含む)に向けて、ひろばの様子やプログラムなどの情報をタイムリー、積極的に発信できたため、初めての利用者や地域外からの利用者が増加した。	
(課題)	
・こどもの目線でのこども本来のニーズ把握。	
・初産婦の子育て支援拠点への認知度が低く、プログラム以外の利用につながりにくい状況がある。妊娠期からでも安心して来られるような仕組みや情報発信の工夫。	
・その他様々な理由で拠点に足を運ぶことができない養育者に対しても支援が届けられる体制づくり、整備をさらに進めるとともに、様々な情報が届きにくい養育者にも届ける手段の模索。	
・より多くの利用者親子が「自分たちの居場所」と実感できる場となるような取り組み。	
振り返りの視点	
ア	いつでも気軽に訪れることができ、安心して過ごせるような配慮、工夫をしているか。
イ	居場所を訪れる様々な利用者(養育者、子ども、ボランティア等)の間に、交流が生まれるように工夫しているか。
ウ	多様な養育者と子どもを受け入れる配慮や工夫をしているか。
エ	養育者と子どものニーズを把握するための工夫をしているか。
オ	把握されたニーズを区関係機関と共有し、ニーズに応じて必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。
カ	子ども年齢・月齢に応じた遊びの環境が整備されているか。
キ	子ども同士の関わりが尊重され、子どもが健やかに育つために必要なことに養育者が気付き、学ぶ機会を提供する場となっているか。
ク	養育者同士が相談、情報交換し、課題解決し合う仕組みや仕掛けがあるか。

様式1-2 地域子育て支援拠点事業評価シート

2 子育て相談事業																																																																																												
目指す拠点の姿		(参考) ①2期目振り返りの課題と ②R5事業評価での課題		自己評価 (A~D)																																																																																								
		法人	区																																																																																									
①養育者とスタッフとの間に安心して相談できる信頼関係ができ、気軽に相談ができる場となっている。		①・名札ストラップの取り組みについて検証し、改善する必要がある。 ・スタッフのさらなるスキルアップを目指し、相手に寄り添う相談対応の向上を図る必要がある。 ②・相談のスキルアップのため、事例検討や研修を区と拠点で協力し実施していく。 ・コロナ禍を経て、ひろば滞在時間が短縮される傾向であるため、利用者との関係づくりの方法を検討する。		A	A																																																																																							
②相談を受け止め、内容に応じて、養育者を関係機関につなげている。また、必要に応じて継続したフォローができるいる。				A	A																																																																																							
☆																																																																																												
評価の理由(法人)																																																																																												
(主なデータ)																																																																																												
<table border="1"> <tr> <th>相談件数</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <td>子育て相談事業(件数)</td> <td>891</td> <td>1103</td> <td>915</td> <td>873</td> <td>1131</td> </tr> <tr> <td>内訳 ひろば</td> <td>505</td> <td>438</td> <td>395</td> <td>422</td> <td>653</td> </tr> <tr> <td>専門個別</td> <td>386</td> <td>665</td> <td>520</td> <td>451</td> <td>478</td> </tr> </table>						相談件数	R2	R3	R4	R5	R6	子育て相談事業(件数)	891	1103	915	873	1131	内訳 ひろば	505	438	395	422	653	専門個別	386	665	520	451	478																																																															
相談件数	R2	R3	R4	R5	R6																																																																																							
子育て相談事業(件数)	891	1103	915	873	1131																																																																																							
内訳 ひろば	505	438	395	422	653																																																																																							
専門個別	386	665	520	451	478																																																																																							
<p>【専門相談日】(R6年度実績)</p> <p>保育士: 6回/年 保育・教育コンシェルジュ: 6回/年 助産師: 12回/年 臨床心理士: 12回/年 栄養士: 12回/年 離乳食教室2回 薬剤師: 6回/年</p>																																																																																												
<p>個別相談項目件数</p> <p>Y軸: 0~160 (件数) X軸: 健康、生活、発育、しつけ、地域、親自身、親の仕事、家庭、就園、制度、親の介護、子どもの介護、経済問題、その他</p> <table border="1"> <caption>個別相談項目件数</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>健康</td><td>75</td><td>130</td><td>110</td><td>100</td><td>115</td></tr> <tr><td>生活</td><td>60</td><td>80</td><td>70</td><td>50</td><td>65</td></tr> <tr><td>発育</td><td>90</td><td>100</td><td>85</td><td>75</td><td>80</td></tr> <tr><td>しつけ</td><td>10</td><td>15</td><td>10</td><td>5</td><td>10</td></tr> <tr><td>地域</td><td>40</td><td>50</td><td>45</td><td>40</td><td>55</td></tr> <tr><td>親自身</td><td>50</td><td>60</td><td>55</td><td>50</td><td>65</td></tr> <tr><td>親の仕事</td><td>10</td><td>15</td><td>10</td><td>5</td><td>10</td></tr> <tr><td>家庭</td><td>20</td><td>30</td><td>25</td><td>20</td><td>35</td></tr> <tr><td>就園</td><td>50</td><td>110</td><td>90</td><td>80</td><td>100</td></tr> <tr><td>制度</td><td>10</td><td>15</td><td>10</td><td>5</td><td>10</td></tr> <tr><td>親の介護</td><td>5</td><td>10</td><td>5</td><td>5</td><td>10</td></tr> <tr><td>子どもの介護</td><td>10</td><td>20</td><td>15</td><td>10</td><td>25</td></tr> <tr><td>経済問題</td><td>5</td><td>10</td><td>5</td><td>5</td><td>10</td></tr> <tr><td>その他</td><td>10</td><td>15</td><td>10</td><td>5</td><td>10</td></tr> </tbody> </table>			項目	R2	R3	R4	R5	R6	健康	75	130	110	100	115	生活	60	80	70	50	65	発育	90	100	85	75	80	しつけ	10	15	10	5	10	地域	40	50	45	40	55	親自身	50	60	55	50	65	親の仕事	10	15	10	5	10	家庭	20	30	25	20	35	就園	50	110	90	80	100	制度	10	15	10	5	10	親の介護	5	10	5	5	10	子どもの介護	10	20	15	10	25	経済問題	5	10	5	5	10	その他	10	15	10	5	10
項目	R2	R3	R4	R5	R6																																																																																							
健康	75	130	110	100	115																																																																																							
生活	60	80	70	50	65																																																																																							
発育	90	100	85	75	80																																																																																							
しつけ	10	15	10	5	10																																																																																							
地域	40	50	45	40	55																																																																																							
親自身	50	60	55	50	65																																																																																							
親の仕事	10	15	10	5	10																																																																																							
家庭	20	30	25	20	35																																																																																							
就園	50	110	90	80	100																																																																																							
制度	10	15	10	5	10																																																																																							
親の介護	5	10	5	5	10																																																																																							
子どもの介護	10	20	15	10	25																																																																																							
経済問題	5	10	5	5	10																																																																																							
その他	10	15	10	5	10																																																																																							
<p>ひろば相談項目件数</p> <p>Y軸: 0~160 (件数) X軸: 健康、生活、発育、しつけ、地域、親自身、親の仕事、家庭、就園、制度、親の介護、子どもの介護、経済問題、その他</p> <table border="1"> <caption>ひろば相談項目件数</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>健康</td><td>40</td><td>45</td><td>40</td><td>45</td><td>50</td></tr> <tr><td>生活</td><td>55</td><td>60</td><td>50</td><td>55</td><td>65</td></tr> <tr><td>発育</td><td>130</td><td>100</td><td>90</td><td>80</td><td>100</td></tr> <tr><td>しつけ</td><td>10</td><td>15</td><td>10</td><td>5</td><td>10</td></tr> <tr><td>地域</td><td>40</td><td>45</td><td>40</td><td>45</td><td>50</td></tr> <tr><td>親自身</td><td>60</td><td>70</td><td>65</td><td>75</td><td>80</td></tr> <tr><td>親の仕事</td><td>10</td><td>15</td><td>10</td><td>5</td><td>10</td></tr> <tr><td>家庭</td><td>20</td><td>30</td><td>25</td><td>20</td><td>35</td></tr> <tr><td>就園</td><td>70</td><td>90</td><td>80</td><td>75</td><td>140</td></tr> <tr><td>制度</td><td>10</td><td>15</td><td>10</td><td>5</td><td>10</td></tr> <tr><td>親の介護</td><td>5</td><td>10</td><td>5</td><td>5</td><td>10</td></tr> <tr><td>子どもの介護</td><td>10</td><td>20</td><td>15</td><td>10</td><td>25</td></tr> <tr><td>経済問題</td><td>5</td><td>10</td><td>5</td><td>5</td><td>10</td></tr> <tr><td>その他</td><td>10</td><td>15</td><td>10</td><td>5</td><td>10</td></tr> </tbody> </table>			項目	R2	R3	R4	R5	R6	健康	40	45	40	45	50	生活	55	60	50	55	65	発育	130	100	90	80	100	しつけ	10	15	10	5	10	地域	40	45	40	45	50	親自身	60	70	65	75	80	親の仕事	10	15	10	5	10	家庭	20	30	25	20	35	就園	70	90	80	75	140	制度	10	15	10	5	10	親の介護	5	10	5	5	10	子どもの介護	10	20	15	10	25	経済問題	5	10	5	5	10	その他	10	15	10	5	10
項目	R2	R3	R4	R5	R6																																																																																							
健康	40	45	40	45	50																																																																																							
生活	55	60	50	55	65																																																																																							
発育	130	100	90	80	100																																																																																							
しつけ	10	15	10	5	10																																																																																							
地域	40	45	40	45	50																																																																																							
親自身	60	70	65	75	80																																																																																							
親の仕事	10	15	10	5	10																																																																																							
家庭	20	30	25	20	35																																																																																							
就園	70	90	80	75	140																																																																																							
制度	10	15	10	5	10																																																																																							
親の介護	5	10	5	5	10																																																																																							
子どもの介護	10	20	15	10	25																																																																																							
経済問題	5	10	5	5	10																																																																																							
その他	10	15	10	5	10																																																																																							

様式1－2 地域子育て支援拠点事業評価シート

①安心して相談しやすい仕組みと相手に寄り添う対応

●多様なスタッフ配置

- ・多胎児、外国人、障がい児等様々な子育て経験のあるスタッフを配置し、利用者が相談しやすい環境を整えている。

●親しみやすい雰囲気づくり

- ・当日のスタッフ写真の掲示や丁寧な声かけなど親しみやすい雰囲気を意識し、雑談の中から日頃の小さな悩みを出せるようしている。
- ・多様な相談ができるよう定期的に保育士、栄養士、助産師等による専門相談日を設け、拠点通信、SNSなどで気軽に相談できることを周知している。
- ・課題となっていた名札ストラップについては利用者、元利用者の声を聞きながら、その日の気持ちの表現について継続して検討した結果、よりシンプルにした。
- ・コロナが収束し、昼食を再開。滞在時間も少しずつ伸びてスタッフ、利用者間でのコミュニケーションがとりやすくなり、繋がりやすくなっている。会話を通して繋がれることの大切さを再確認している。

●相談場所の多様性

- ・相談場所はひろば、庭のデッキ、個室と相談者が選択でき、相談時の気持ちや内容に沿えるよう配慮している。
- ・外国人でも相談しやすい場所であることを周知するため、多言語の情報チラシ、絵本、HPでの外国人向けページ増設、6か国語自動対応機能を付けるなど工夫している。タブレットの翻訳機能も有効利用している。
- ・育てにくさを感じている養育者や、他利用者への気兼ねからひろば利用にためらいを感じる親子の居場所として、毎週1回、にこポンテを別室で開催している。

●父親の利用しやすさ

- ・父親の利用増加を受け、父親のニーズを把握するため先輩パパにパパ向けプログラムの講師になってもらい、パパの声を引き出してもらった。また男性スタッフがいることでパパたちからの声を聞きやすくなり、他のスタッフも声掛けしやすくなった。

②相談内容の傾向の把握と振り返りから望ましい対応へ

●相談内容の分析と改善

- ・毎日の振り返りで共有するほか毎月のスタッフ会議で相談内容の傾向を確認し、対応の改善に生かしている。

●スキルアップの取り組み

- ・様々な相談を想定し拠点の職員で対応を検討した上で、区保健師などからさらにアドバイスを受けたり、虐待防止研修を行うなど知識を深め各種相談に対応し、必要時に関係機関へ繋ぐことができるよう対応者のスキルアップに努めている。
- ・中間振り返りでは相談スキルアップのため区と一緒に事例検討や研修を行っていきたいとしたが、保健師研修に参加させていただける方向で検討いただいている。

③区との連携と役割分担のうえの継続的な関わり

●定期的な情報共有

- ・区と毎月のカンファレンスの際には必要な情報共有を行い、養育者への適切かつ効果的な支援を行えるよう各種専門機関との連携連絡体制を作っている。

●外国人支援の連携

- ・外国人についても必要に応じて区に相談し適切な関係機関につなげたり、適切な支援が行えるよう連携している。

評価の理由(区)

1 相談事業の周知と専門相談の支援

赤ちゃん教室や乳幼児健診等で拠点の相談事業を紹介した。また、保育コンシェルジュや育児支援専任保育士等の専門的な相談に対応できる職員の派遣について調整を行った。

2 相談対応に係る連携と支援

専門的な対応が必要と考えられる場合には、区の担当保健師を通じて地区担当の保健師やケースワーカーの支援につながるようにしており、拠点と区の連絡・連携の体制が構築されている。また、区職員による研修を実施する等、相談対応に関するスキルアップの場を提供した。

区の職員のひろば参加について調整を行った。

外国人向けのプログラム実施時には関係機関との調整を行い支援した。

様式1－2 地域子育て支援拠点事業評価シート

拠点事業としての成果と課題	
(成果)	<ul style="list-style-type: none">・外国人スタッフがいることで母国語での相談ができることが伝わり、相談にも繋がっている。・さまざまな専門分野での相談ができることが周知され、専門相談員を目指して気軽に相談に訪れている。・個人情報保護に配慮しつつ、スタッフ間の情報共有を密に行い、拠点内他事業につなぐことも常に意識してそれぞれの機能を活用できている。・相談の内容を分析し、プログラムなどで話題を提供することで利用者がより相談しやすく自分たちでも解決できる場を創出できた。
(課題)	<ul style="list-style-type: none">・父親への育児支援として日頃の思いを話せる場をつくってきたが、さらに声を拾うための工夫。・区の協力のもと、相談のスキルアップのための事例検討や研修の実施。・区と連携して専門機関等の情報を必要に応じて更新し、多様な相談に適切に応えられるよう情報集積。
<hr/> 振り返りの視点 ア 養育者が相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。 イ どのような相談に対しても傾聴し、相手に寄り添う相談対応を行っているか。 ウ 相談内容の傾向を把握し、振り返りを行い、望ましい対応の検討や共有に努めているか。 エ 各種専門機関の役割を把握し、養育者への効果的な支援を行うための連携、連絡体制を作っているか。 オ 専門的対応が必要と考えられる相談について、適切に対応しているか。 カ 関係機関とつながった後にも、役割分担に応じて、継続的な関わりを持っているか。	

様式1-3 地域子育て支援拠点事業評価シート

3 情報収集・提供事業																																					
目指す拠点の姿	(参考) ①2期目振り返りの課題と ②R5事業評価での課題	自己評価 (A~D)																																			
		法人	区																																		
①区内の子育てや子育て支援に関する情報が集約され、養育者や担い手に向けて提供されている。	①・子育て応援マップについては、養育者へのアンケートなどを実施して、利用者目線で更新・改訂を行う必要がある。 ・拠点が情報収集・提供の窓口であるということを、関係機関により広く周知する必要がある。	A	A																																		
②子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることが、区民に認知されている。	②・利用者からのニーズが高い保育園・幼稚園等の情報は、区役所と連携し、タイムリーに情報提供する必要がある。	A	A																																		
③拠点の情報収集、発信の仕組みに、養育者や担い手が積極的に関わっている。	・子育て応援マップがより利用者目線となるような支援情報の提供・発信の仕組みを考える必要がある。	A	A																																		
☆																																					
評価の理由(法人)																																					
(主なデータ) 拠点通信「おいでよ」 2200部/月 170カ所 子育て応援カレンダー 1700部/月112箇所 せや子育て応援マップ ぐるっとなび 7000部 /260カ所 にこてらすHP 地域の子育て支援に関する情報ページ開設 にこてらすインスタグラム(フォロワー数854) 瀬谷区子育て応援ネットインスタグラム(フォロワー数809)開設																																					
令和2年度 にこてらす利用者アンケートより		R6年度 にこてらす利用者アンケートでの状況																																			
<p>Q26 子育ての情報を得るために利用している手段を教えてください。 (複数回答可) 113件の回答</p> <table border="1"> <caption>Q26: 子育ての情報を得るために利用している手段</caption> <thead> <tr> <th>手段</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>インターネット検索</td><td>23.9%</td></tr> <tr><td>にこてらすホームページ</td><td>62.8%</td></tr> <tr><td>瀬谷区ホームページ</td><td>48.7%</td></tr> <tr><td>Facebook</td><td>16.8%</td></tr> <tr><td>Twitter</td><td>15%</td></tr> <tr><td>Instagram</td><td>36.3%</td></tr> <tr><td>Line</td><td>10.6%</td></tr> <tr><td>YouTube</td><td>11.5%</td></tr> <tr><td>チラシ</td><td>6.2%</td></tr> <tr><td>雑誌</td><td>5.3%</td></tr> <tr><td>回観板</td><td>4.4%</td></tr> <tr><td>メールマガジン</td><td>2.7%</td></tr> </tbody> </table>	手段	割合	インターネット検索	23.9%	にこてらすホームページ	62.8%	瀬谷区ホームページ	48.7%	Facebook	16.8%	Twitter	15%	Instagram	36.3%	Line	10.6%	YouTube	11.5%	チラシ	6.2%	雑誌	5.3%	回観板	4.4%	メールマガジン	2.7%	<p>Q13 にこてらすInstagram、Facebook...gramを知っていますか (知っているものにチェック) 145件の回答</p> <table border="1"> <caption>Q13: にこてらすInstagram、Facebook...gramを知っていますか</caption> <thead> <tr> <th>状況</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>にこてらすInstagram: にこつじい@瀬谷区地域子育て支援拠点にこてらす</td><td>54.5%</td></tr> <tr><td>にこてらすFacebook</td><td>5.5%</td></tr> <tr><td>瀬谷区子育て応援ネットInstagram</td><td>19.3%</td></tr> <tr><td>知らない</td><td>40.7%</td></tr> </tbody> </table>	状況	割合	にこてらすInstagram: にこつじい@瀬谷区地域子育て支援拠点にこてらす	54.5%	にこてらすFacebook	5.5%	瀬谷区子育て応援ネットInstagram	19.3%	知らない	40.7%
手段	割合																																				
インターネット検索	23.9%																																				
にこてらすホームページ	62.8%																																				
瀬谷区ホームページ	48.7%																																				
Facebook	16.8%																																				
Twitter	15%																																				
Instagram	36.3%																																				
Line	10.6%																																				
YouTube	11.5%																																				
チラシ	6.2%																																				
雑誌	5.3%																																				
回観板	4.4%																																				
メールマガジン	2.7%																																				
状況	割合																																				
にこてらすInstagram: にこつじい@瀬谷区地域子育て支援拠点にこてらす	54.5%																																				
にこてらすFacebook	5.5%																																				
瀬谷区子育て応援ネットInstagram	19.3%																																				
知らない	40.7%																																				
①子育て支援情報の収集・提供 <ul style="list-style-type: none"> ●養育者のニーズに沿った情報提供 <ul style="list-style-type: none"> 瀬谷は交通の便が悪く、拠点は駅から遠く来所しにくいという課題がある。そのため広報紙・HPや子育て応援カレンダー・子育て応援マップ「ぐるっとなび」・SNSなどさまざまな媒体を通じ、支援情報を提供した。 令和2年度に「子育ての情報を得るために利用している手段」について利用者アンケートを行ったところ、SNSの割合が高かった結果をふまえ、拠点HPを整備(プレママ・外国人・地域・保育園情報「えんさがししサポートよこはま」のリンク・6か国語自動翻訳)。拠点と瀬谷区子育て応援ネットのインスタグラムを新設することで、より利用者が情報を得やすいうようにした。 保育園情報はニーズの高まりを受け、保育・教育コンシェルジュの相談を集団説明会形式に変更し、その後個別の相談ができるようにした。 ひろば内では地域別の情報を6色に分けて掲示し、利用者がより近所の情報を得やすくなるよう工夫している。特に新規利用者のニーズに応えられるよう、「引越しパック」「プレママプレパパパック」や「多言語情報コーナー」を作っている。これにより、この地域で安心して子育てできる環境があることを伝えることができている。 ●親子のつどいの広場との連携 <ul style="list-style-type: none"> 親と子のつどいのひろばと共に区内常設の居場所をまとめたチラシを作成、地域の支援会場に配布協力依頼し、いつでも行ける地域の居場所の情報を提供した。 ●地域の様々な場での子育て支援情報の提供 <ul style="list-style-type: none"> 出張ひろば(令和6年度18回)や出張パートナー相談(令和6年度27回)・4か月健診会場(毎月2回)などで拠点や地域の支援会場などの子育て支援情報の提供を行った。 ●地区担当スタッフがつなぐ・伝える <ul style="list-style-type: none"> 子育て応援イベント(4地区各年1回)の実施や地区担当者が担当地域をまわり、地域の支援会場の様子や担い手の顔が伝わるよう、ひろばやSNSで伝えた。直接担い手と話し現状や課題を共有することで、より適切でわかりやすい情報提供ができた。 ●拠点サイト、パマトコの活用 <ul style="list-style-type: none"> R6年度からは拠点サイト及びパマトコの運用が始まり、養育者がより情報を得やすくなったので、サイト利用の周知や拠点のイベント情報を随時更新し、活用している。 ●コロナ禍の孤立防止 <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍には、地域のイベント中止などの情報や家庭での遊び方、応援メッセージなどをHPや応援カレンダーで発信し、集うことが難しい中、地域の親子が孤立しないようできる限り情報を発信することに努めた。 																																					

様式1－3 地域子育て支援拠点事業評価シート

②子育て支援に関する情報・提供の拠点であることを周知

●子育て支援の担い手への周知

- ・瀬谷区子育て応援ネットやつどいの広場連絡会(拠点連絡会)・主任児童委員定例会ほか子育てに関するネットワークを通じ、担い手の皆さんへも拠点の情報収集提供機能について周知を行っている。これにより、より情報量が増え、養育者のニーズに応える形となっている。
- ・HPの地域のイベントページや子育て応援ネットのインスタグラムを新設したことでも地域に足を運ぶ利用者がふえ、支援者側に拠点の情報提供機能についての理解が進み、情報収集・提供しやすくなった。
- ・ひろば外の廊下にある掲示板を活用している。複合館内に拠点があることで多くの地域の方が子育て支援情報を得る場となっている。

●当事者への周知

- ・当事者に対し、ひろばの新規利用時や地域の赤ちゃん教室、プレママプレパパ講座(拠点プログラム)ほかで拠点の情報収集機能について周知を行った。

③情報収集・提供の企画に養育者や担い手が関わる仕組みづくり

●子育て応援マップ「ぐるっとなび」

- ・地域で子育てを楽しめるよう、当事者目線での地域情報提供のため、子育て応援マップ「ぐるっとなび」を作成。子育て当事者(令和6年度13名)や地域に詳しい担い手(令和6年度6名)をまきこみ取材・編集活動を行った。地域での活用方法を紹介したチラシ作成や、子育て世代のおすすめの地域情報交換の座談会を開催。そこから、室内で話すより実際におでかけしてみよう、とおさんぽ会の企画につながっている。

●利用者同士の声の交換

- ・ひろばでは利用者同士の情報交換の場として、年齢別トークプログラムや幼稚園ママのインタビュータイムを設けた。その内容は当事者の声として共感できる部分が多いのでひろばに掲示し、参加できない利用者も知る事ができるよう工夫した。

評価の理由(区)

1 拠点への情報提供及び区民への情報提供

横浜市や区役所各課で行う制度や事業の共有、こども家庭支援課で把握している保育園・幼稚園等の情報の提供を行った。また区事業において拠点を紹介するリーフレットの配布やパネルの展示を行い、拠点の情報提供機能について周知した。R6年度からは拠点サイト及びパマトコの運用が始まったため稼働状況等を定例会等で共有し活用方法の検討を行った。

2.子育て支援に関する情報・提供の拠点であることを周知

外部会議や広報などで拠点の子育て情報収集、情報提供機能の周知を行っている。

3情報収集、提供の企画への養育者の関わりの支援

ぐるっとなびの編集会議や取材等に同行したほか、庁内関係機関や他自治体との調整等、行政分野における支援を行った。また完成したぐるっとなびを区事業等で積極的に配布した。ぐるっとなびの更新作業については拠点に委託し、養育者と支援者が関わる機会を作っている。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・時代のニーズに呼応し、インスタグラムの新設やHPの整備を行ったことで、利用者にとって視覚的にもより効果的な情報発信となった。また、支援者サイドにおいても情報発信の場として活用され、双方的な情報発信・入手の手段を確立することができた。
- ・子育て応援マップの認知度の上昇と共に、配架協力店が増加した事により子育て情報を広く周知することができた。

(課題)

- ・育休・就労中世帯の増加など社会の変化にあわせ、より必要な子育て情報が届くよう、内容や発信手法のブラッシュアップ。
- ・地域イベントや祭り情報など、子育て世代が地域の人とつながり安心して暮らせるための情報を入手できるように情報収集、発信。

振り返りの視点

- | | |
|---|--|
| ア 養育者や担い手が必要としている情報が何かをとらえ、区内の幅広い地域の子育てや子育て支援情報を収集・提供しているか。 | |
| イ 来所が困難な養育者や担い手も含め、情報を入手しやすいよう、さまざまな媒体や拠点以外の場を通して情報発信しているか。 | |
| ウ 利用者が情報を入手しやすく、自ら選べるひろば内の工夫をしているか。 | |
| エ ネットワークを活かして情報を収集し、を養育者や担い手に提供しているか。 | |
| オ 様々な子育て支援情報を拠点が集め、提供していることを広く区民に周知しているか。 | |
| カ 養育者や担い手から拠点に情報が届けられる仕組みや工夫があるか。 | |
| キ 情報収集・提供の企画に養育者や担い手が関わる仕組みや工夫があるか。 | |

様式1-4 地域子育て支援拠点事業評価シート

4 ネットワーク事業

目指す拠点の姿	(参考) ①2期目振り返りの課題と ②R5事業評価での課題	自己評価 (A~D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークを構築・推進している。	①子育てに关心のある団体のネットワークはつながってきたが、子育てに関わりが薄いが、地域活動を主体的に行っている層と当事者との関係づくりを働きかける必要がある。	A	A
②ネットワークを活かして、拠点利用者を地域へつないでいる。	②地域活動を主体的に行っているが子育てには関わりが薄い層と子育て当事者との関係づくりを働きかける必要がある。	B	A
☆			

評価の理由(法人)

(主なデータ)

●瀬谷区子育て応援ネット

拠点と区が事務局になって地域で安心して子育てできる環境づくりをめざし、区内子育て支援団体で構成するネットワーク。

・参加団体

令和3年度: 85団体 → 令和7年度: 93団体 (新規: 幼稚園×5、区民文化センター、スポーツセンター、区民活動センター、地域サロン) 全体会: 1回/年、地域別ブロック連絡会: 4ブロック×各3回～6回

●瀬谷区子育て応援イベント(令和3年度より応援ネットで企画運営)

・当事者が地域の子育て支援に関わる団体や施設を知ること、虐待防止の啓発を目的に地域別ブロック4公園で年1回開催。(令和6年度参加者数: 親子 224組558人 支援者147名 計705名)

●拠点が参加するネットワーク

・瀬谷区拠点連絡会 (親と子のつどいの広場、育児支援センター園)

・ピンチをチャンスに! 減災共助の会(消防署・子育て団体・手話サークル・高齢障害団体など10団体 災害時要援護者の理解啓発活動)

(その他)

・瀬谷区障害者自立支援協議会せやまんまるねっと

・要保護児童対策協議会 実務者会議(瀬谷区児童虐待防止連絡会)

・ボランティアセンター運営委員会

・こんにちは赤ちゃん訪問員・

・瀬谷区多文化共生に係る情報交換会

・横浜国際園芸博覧会瀬谷区推進協議会

・読書活動推進委員会 他

①地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークの構築・推進

【子育て支援応援ネット事務局】

●プロック会議を定期的に開催、情報交換を行った。またスキルアップを目的に研修を実施し支援力の向上に努めた。令和3年度より子育て応援イベントを、年4回4公園で開催、「遊び方や過ごし方」の提案を中心化すえ支援者と子育て家庭をつなぐ機会とした。

●子育てサークルも応援ネットに参加し、当事者視点での議論ができた。

●令和6年度にもつとつながる瀬谷の子育てネットワーク事業でアンケート(回答数516)を行い、子育て関係機関への共有を区から受託、活動活性化のための後方支援を行った。

【区内関係機関におけるネットワーク連携】

●各種会議に出席し、情報交換や拠点事業の周知を行った。

●保育園・幼稚園との連携

・合同保育講座(親子でぎゅーっとキンシップ)に区内の保育園・幼稚園(一部)と参加

・毎年、父親向けの遊びをケアプラザ・幼稚園・保育園と連携し開催した。

・育児支援専任保育士 遊びの提案や育児相談を行った。

●市民利用施設と連携イベント・講座を開催した。

・瀬谷消防署「鯉のぼりづくり」

・西部地域療育センター ひろば相談「言葉の根っこを育てよう」

・スポーツセンター 「ベビーヨガ講座」

・区民活動センター 「屋ドキイベントせや」

●拠点から遠い下瀬谷・阿久和地区での出張ひろばや子育て相談

・瀬谷区「いきいき瀬谷っこ」(瀬谷第二小学校にて年2回開催ベビーコーナーを担当)

・阿久和・下瀬谷地域ケアプラザ

・プレイパーク

●自治会との連携

・二ツ橋北部自治会 「盆踊り」外国人プログラム

●商店街 ハマハグ協賛店依頼の働きかけ

●食支援団体との連携 食支援団体との活動協力、区社会福祉協議会や民生委員・主任児童員定例会で食支援が必要な親子の状況共有。

●防災啓発に向けた連携 ピンチをチャンスに! 減災共助の会

様式1－4 地域子育て支援拠点事業評価シート

②地域へ拠点利用者をつなぐ

- ネットワークを活かし地域のイベントを集約した子育て応援カレンダーやお出かけ先をまとめた子育て応援マップを区内に配布し、利用者を身近な地域へつなげている。ひろばでも収集した情報を活用して養育者に地域のサロンや居場所、プログラム等を紹介した。
- 昼食前の時間でのPRできる時間や、保育園や地域団体が定期的に手遊びや、読み聞かせをする「地域いきいきタイム」を設け、直接活動を見ることで養育者が安心して地域に出向けるよう努めた。
- 身近な地域の支援の場に繋げるよう各地域に出向いて出張ひろばを開催した。
- ハマハグ協賛店を募る活動を通して商店街、施設などへ子育てを支援する環境つくりを働きかけた。

評価の理由(区)

1 地域の子育て資源との連携の促進

地域が主体となる子育て応援イベントを区と拠点が連携して実施し、地域の子育て資源同士の連携強化につながる取組となった。応援ネット全体会と子育て支援者向け研修会を同日開催することで支援者同士がつながる機会を提供した。今後瀬谷区全体の現状を共有し課題解決に向けた取り組みができるとなおよい。

応援ネットブロック会議に地区担当保健師が出席し地域のニーズ把握に努めた。ネットワーク事業で集めたアンケートの結果をブロック会議で共有し、地域の課題を拠点及び地域と共有することに務めた。

2 地域の子育て資源と子育て世帯のつながりのきっかけづくり

子育て応援イベントにおいて、地域の子育て資源に運営として参加してもらうことで、子育て世帯と地域の居場所のつながるきっかけとなる場を提供した。

ぐるっとなびの更新作業や子育て応援イベントの企画、運営を拠点に委託することで拠点の活動機会を作り広く拠点を周知する機会を作っている。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・地域資源に向けてネットワークの必要性を伝えていったことで、応援ネットの参加団体が増加し、地域分散した形の地域に根差した子育て応援イベントを実施することができた。
- ・支援者や民生委員などの協力を得てイベント運営を行ったことで、地域との連携を強めることができた。

(課題)

- ・地域活動を主体的に行っているが子育てには関わりが薄い層と子育て当事者との関係づくりの働きかけ。
- ・地域福祉保健計画と連動した事業展開。

振り返りの視点

ア 地域の子育て支援関係者が、互いに知り合い、理解し、子育て家庭の状況及び子育て支援の情報や課題を共有するための場、機会をつくりだしているか。

イ 地域の子育て支援関係者が協力し、支え合えるように、関係者同士をつないでいるか。

ウ 子育て家庭や地域の子育て支援関係者のニーズを踏まえ、子育て支援分野に限らず、様々な社会資源と連携・協力した取組を実施しているか。

エ 養育者や子育て支援活動に関心のある人を身近な地域の子育て支援の場や地域の活動につなげているか。

オ 子育て支援活動に関心のある方を丁寧に受け止め、必要に応じて身近な地域の活動へつなげているか。

様式1-5 地域子育て支援拠点事業評価シート

5 人材育成・活動支援事業					
目指す拠点の姿		(参考) ①2期目振り返りの課題と ②R5事業評価での課題		自己評価 (A~D)	
		法人	区		
①地域の子育て支援活動を活性化するため、担い手を支えることができている。		①・子育て支援に関わる機会が少ない地域活動者へのアプローチを検討をする必要がある。 ・複合館のメリットを活かした、多世代のつながりづくりを、今後さらに進める必要である。		A	A
②養育者に対して地域活動の大切さを伝えるとともに、地域の子育て支援活動に関心のある人が、活動に参加するきっかけを作っている。		②・活動しているボランティア同士のつながりを作る機会の提供 ・コロナ禍での活動で、特に制限が強かった小中学校における子育て支援の理解促進を目的とした事業展開		A	A
③広く市民に対して、子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気づくりに取り組んでいる。		・地域で活動するサークルなどを支援し、より地域資源を活用した子育て支援を行って行く		A	A
④これから子育て当事者となる市民に対して、子育てについて考え、学びえるように働きかけている。				A	A
☆					
評価の理由(法人)					
(主なデータ)					
ボランティア登録者数					
	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
登録者数	15	39	47	40	37
ボランティア活動回数					
	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
中学生	0	2	1	11	3
高校生	4	39	40	15	8
大学生	43	13	1	3	0
地域	108	273	330	264	197
令和6年度 子育て応援マップぐるっとなびリポーターアンケート					
活動後の感想（複数回答可 回答数18 当事者13 つどいのひろばスタッフ5）					
一緒に冊子作りをすることを楽しめた					14
地域を身近に感じることができた					14
地域にいろいろな活動や子育て支援があることを知ることができた					13
仲間つくりができた					8
①地域の子育て支援活動の活性化					
●子育て支援者への働きかけ					
<ul style="list-style-type: none"> 子育て応援ネット事務局として、地域ブロック会議や全体会などの調整や活動目的の共有を図るなど活動のサポートを行っている。また、支援者向け研修会を実施（年1回令和6年度55名参加）し支援者の活動がより充実するよう取り組んだ。 プレママプレパパ講座にボランティアスタッフとして地域の支援者に加わっていただくことで親になる前からの支援体制を強化している。 					
●サークル支援					
<ul style="list-style-type: none"> 下火となっていたサークルを立て直すため、活動場所や内容の助言、オープンサークルを一緒に行い活動が途切れないと支援した。 					
●多世代の地域ボランティア					
<ul style="list-style-type: none"> 多世代のボランティアが活動している中、それぞれのモチベーションの維持や活動が継続できるよう、活動内容や種類を用意し、意向を丁寧に聞き取ってマッチングすることで活動を下支えしている。 65歳以上のボランティアがいることから「シニアボランティアポイント」受入施設としての登録をし、多世代交流を意識した事業展開を行っている。 ひとり親を中心とした食糧支援団体「お福分けの会」に参加し、多くの人手を必要とする配達や仕分けなどの作業を地域の方のボランティア活動に繋げている。この活動では地域の方に参加してもらうことで、活動の周知及び子育て世代への理解促進を図っている。 					

様式1－5 地域子育て支援拠点事業評価シート

②活動に参加するきっかけづくり

●当時者の参加

- ・子育て応援マップ「ぐるっとなび」の編集活動を当事者や地域の支援者とともにを行い、子育てをしている仲間で地域活動をする良さを感じる機会を作っている。さらに活動した当事者が子育て応援マップに掲載したあそびをひろばで伝えるなど活躍の場を広げると同時に次の担い手となる当事者への参加のきっかけづくりにつながっている。
- ・子育てサークルの活動が充実するようにと活動の内容を把握することで、サークルメンバーがデコレーションしたマタニティマークを妊婦にプレゼントしたり、誕生日会での手作りプレゼントの取り組みにつながった。また、サークル活動内容を拠点のSNSで発信するなど活動が展開されるよう支援している。

●複合館の中という立地の中で

- ・複合館の交流イベント(せやまるふれあいふくしまつり)で趣味や特技を生かした出店を子育て当事者に募集した。地域活動のきっかけ作りや、拠点をさまざまな人に知ってもらう機会作りを行った。
- ・複合館他施設を利用されている高齢者サークルの方が、ひろばのボランティア活動を希望され活動に繋がった。
- ・社会福祉協議会のボランティアだよりにボランティア募集記事を掲載依頼したこと、応募があり活動に繋がった。

③子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気づくり

●顔の見える関係

- ・せやまる・ふれあいふくしまつりへの参加、子育て応援マップ「ぐるっとなび」配布、自治会館・ケアプラザでの「出張ひろば」の開催等を通じ、実際に地域へ出向き関係を深めながら広く拠点や子育て世代を知ってもらうよう取り組んだ。
- ・ハマハグ協賛店を募る活動を通して施設、商店街への子育てを支援する環境つくりを働きかけた。
- ・区民活動センター「昼ドキイベントせや(公会堂で地域活動の成果を発表する会)」でさまざまな世代と子育て世代が知り合う機会作りを子育てサークルも巻き込み検討を始めた。

④これから当事者となる市民への働きかけ

●親になる前講座

- ・区と協力し親になる前事業として、「プレママ・プレパパきてみて体験！」プログラムに取り組んだ。

●学生に向けて

- ・近隣学校にボランティア募集のチラシを掲示依頼した。その後長期休みに学生が拠点のひろばボランティアとして活動した。R6年度からは近隣の高等学校に出かけて生徒に直接声掛けを行う機会を得た。
- ・大学・短大・専門学校など主に看護学生のひろば実習、高校生(県立高校・市立特別支援学校)の体験授業、中学生の職業体験などの受け入れを積極的に行なった。
- ・近隣、他区の市立高等特別支援学校と連携し、出張授業(妊娠体験、赤ちゃんのお世話体験)を行った(R4)。

評価の理由(区)

1 地域の子育て支援活動を活性化するための担い手のサポート

支援者向け研修会の実施を計画し子育て支援に関わる方の学び及び意欲向上となる取組の企画を実施した。

2 地域の子育て支援活動に関心のある人が活動に参加するためのきっかけづくり

ぐるっとなびの作成・更新作業を拠点に委託し養育者が地域の活動に関心を持つきっかけとなった。

3 区民への子育て支援活動の周知

広報よこはま瀬谷区版に区内のひろば等を紹介するコラムを掲載するなど、区民への周知を行った。

4 これから当事者となる市民への支援

親になる前支援として、区専門職が事業に参加し法人と協力して事業へ取り組んだ。

妊娠期支援のプログラム開催にかかる日程調整や会場確保などを行い、これから子育て当事者となる市民と子育て中の親子のふれあいの場の提供をサポートした。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・支援者向けの研修会を区と協力して実施し、支援者の意欲向上やスキルアップのきっかけとなる場を提供した。
- ・地域資源に協力を得てのイベントや出張ひろば等の開催、ハマハグ協賛店舗・施設の開拓(毎年20件)など地域ぐるみで子育て支援を行う雰囲気を高めることができた。
- ・地域で活動するサークルなどを支援し、より地域資源を活用した子育て支援を行った。
- ・SNSで情報を交換するなど、情報受発信ツールを増やしたことにより多くの地域とつながるきっかけとなった。
- ・活動意欲のあるボランティアへ丁寧に聞き取りを行い、マッチングをするなど信頼関係を構築し、ボランティアの活動を推し進めることができた。開所15年目となり、利用者だった親や子がボランティアとして活躍している。

(課題)

- ・活動モチベーションを高めるボランティア同士のつながりを作る機会等の提供。
- ・コロナの期間、これから子育て当事者となる市民(学生含む)についての理解促進の機会を逸してきた。特に学校との関係を再構築し、子育てに触れる機会の創出。

振り返りの視点

ア 地域で子育て支援に関わる人が増えているか。かつ新たな担い手を発掘・養成する取組がなされているか。

イ 子育て家庭や担い手のニーズを踏まえ、活動意欲の向上やスキルアップにつながる取組がなされているか。

ウ 地域の子育て支援活動がより充実されるよう、必要に応じて新たな活動希望者を結び付けているか。

エ 養育者が地域を身近に感じ、地域の活動に関心を持てるように働きかけているか。

オ 活動希望を丁寧に受け止め、拠点内の活動や身近な子育て支援活動等に結び付けているか。

カ 子育ての現状や子育て支援の必要性を周知・啓発しているか。

キ 子育て家庭(妊娠期の方を含む)を温かく見る気持ちを持つことができるよう働きかけているか。

ク これから子育て当事者となる市民と子育て中の親子がふれあい、学び合う機会や場を作っているか。

様式1-6 地域子育て支援拠点事業評価シート

6 横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業						
目指す拠点の姿		(参考) ①2期目振り返りの課題と ②R5事業評価での課題			自己評価 (A~D)	
		法人	区			
①子育てサポートシステムに、多くの区民の参画が得られている。		①利用が増えていないことについて、具体的な方法を検討し改善する必要がある。 ② 現在子サポを利用していない養育者に対し、どのように働きかけ利用に繋げていくか検討が必要である。			A	A
②養育者にとって、必要な時に利用しやすい事業となっている。					B	B
③会員が地域の支え合いの良さ、大切さを理解しながら、利用や活動を継続できるように、支えることが出来ている。					A	B
④養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談や他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげている。					A	A
☆						
評価の理由(法人)						
(主なデータ)						
年度末会員数		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	利用	211	207	225	297	333
	提供	43	39	50	62	67
	両方	33	33	33	34	25
	休止	3	3	6	7	6
	援助活動数	451	371	504	1041	1411

①子育てサポートシステムを区民に広く知ってもらうための働きかけ

- 入会説明会案内**
 - ・入会説明会の案内を拠点の広報物に毎月掲載し、拠点HPも随時更新している。
 - ・つどいのひろば・ログハウス・地域ケアプラザなどで出張入会説明会を実施、参加を呼びかける案内チラシを施設周辺に掲示し、周知した。
 - ・入会説明会の様子をSNSに投稿し周知に努めた。
- 区の協力**
 - ・区の協力で区内全小学校での入学説明会や公立保育園(3園)の入園説明会、こんにちは赤ちゃん訪問時にちらしを配付し、広く周知を行った。(保育園入所説明会の会場近くにブースを出し来場者に周知をした。) R6年度には「すぐ一歩」を活用して区内小学校に周知でき、会員増につながった。
 - ・子育てサポートシステム(以下、子サポ)を紹介するパネルを作成し、子育て世帯へ周知するため区役所健診フロアに設置した。
 - ・赤ちゃん教室に出向き周知を継続して行っている。
- 拠点内周知**
 - ・提供会員の活動を知ってもらうため、拠点のボランティアに子サポの案内をしている。声かけをしたことで会員登録につながった。

②利用しやすい働きかけ

- 柔軟な対応**
 - ・指定日の集団説明会に加え、ひろばでの個別入会説明会を実している。また希望があれば自宅に伺って説明を行っている。
 - ・会員のひろば利用があるときに子サポの利用についてヒアリングを行った。
 - ・ひろばで預かりを行う「ひろばde子サポ」を新たに実施し、周知のためのチラシをひろばに掲示した。
- 新システム**
 - ・新システム導入となり、入会説明会の日程が見やすいうこと、WEBで申し込みできるようになったことで説明会参加者が増えた。
 - ・新システムへの移行に際して会員への説明会を実施、参加できなかった方への対応も丁寧に行つたことで報告書の電子化が滞りなく進んだ。

様式1-6 地域子育て支援拠点事業評価シート

③ 活動の継続に向けての働きかけ

●直接の状況ヒアリング

- ・年度変わり等変化の時期には利用会員へヒアリングを丁寧に行い、次のサポートに繋げている。
- ・事務局に足を運び報告書の提出をされる提供会員が多くいるため、その際ヒアリングを実施している。
- ・新システム導入で電子化され、便利になったのでまず慣れ、積極的に使ってもらえるよう働きかけをした。問い合わせにも個別に対応し、必要に応じて出向いてヒアリングを行なながら説明した。

●活動の場の創出

- ・会員の活動の場として集団見守り「ちょこサポ」を継続し、子育てマップの編集会議や拠点プログラムの見守りなどで活動した。

●会員活動の様子を発信

- ・個人情報保護の啓発や救命救急講座、交流会など活動の様子を会員向け通信の中で発信している。様子を知ってもらうことで安心して活動継続につながるように努めている。

④ 拠点事業や他機関との連携

●ひろばとの連携

- ・ひろばスタッフ(拠点・親子のひろば)が利用者のニーズを聞き取って子サポのコーディネーターにつないだ。

●利用者支援員・区との連携

- ・相談内容によっては、利用者支援事業や区の保健師、担当部署に繋いだ。
- ・区から繋がってくるケースもあり、区と相談しながら利用につなげている。

●他の地域資源の熟知

- ・子サポでは対応が難しい対応は、一時預かりや子育てタクシーなど近辺の他の資源を紹介してサポートに努めている。
- ・地域の通訳翻訳グループと協力して入会説明会資料を多言語化した(中国語・ベトナム語)。

評価の理由(区)

1 子育てサポートシステムの周知

区役所の情報コーナーにチラシを配架したほか、健診フロアに事業を周知するパネルを設置し乳幼児健診の際に案内した。赤ちゃん教室で子育てサポートシステムスタッフが事業紹介できるよう調整した。

2 利用のきっかけづくり

各種家庭訪問、保育所入所説明会、小学校入学者説明会など、他事業と連携し多様な場でチラシの配付や制度の説明を行った。

3 会員への支援

予定者研修会の実施にあたり、拠点と連携し、会場調整の他、研修講師の手配など、会員が活動しやすいよう必要な支援を行った。

提供会員及び利用会員からの意見や相談等について共有し、必要時支援した。

4 拠点との協力体制

専門的な対応が必要な場面には区から必要な支援を行えるよう、支援機関を整理し拠点と共有した。

拠点システムやパマトコの開設状況等について情報共有を行い、アプリ運用開始に伴う困りごとなどを把握し適宜局へ情報提供を行った。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・様々な年齢の子どもを持つ子育て世帯へ周知できるよう、保育園、小学校他様々な場所で周知を実施し、会員数や活動実績が増加した。

(課題)

- ・区から繋がる困難ケースについて丁寧な役割分担と調整。
- ・提供両方会員は増えているが、実働会員の平均年齢が上がっており、次を担う世代への周知は課題。
- ・周知においてまだ未着手な地域がある。

振り返りの視点

ア 区民に対して、子育てサポートシステムについての周知活動を行っているか。

イ 提供会員数拡大に向けた取組がなされているか。

ウ 就労に関する以外の養育者のリフレッシュ等の理由での利用を含め、利用したい人が利用に結びつくための工夫をしているか。

エ 会員が相互の合意のもとに安心安全な活動できるよう、丁寧なコーディネートができているか。

オ 会員の声の把握に努め、必要に応じて活動内容の調整や追加のフォロー等を行っているか。

カ 活動における事故防止のための講習、個人情報取扱いに関する注意喚起など、会員への安全対策をはかっているか。

キ 提供・両方会員が安心・安全な活動を継続して行えるよう研修会等の取組がなされているか。

ク 会員が活動の意義を感じられ、会員間の親睦を深め信頼関係の構築のため、会員間の交流をはかる取組がなされているか。

ケ 援助活動の調整時や会員の声から把握した子育てのニーズを地域子育て支援拠点としての事業に活かしているか(新たな事業の実施や事業の見直しなど)

コ 利用相談の内容に応じて、子育てサポートシステム以外のサービス等の情報提供や関係機関に適切につないでいるか。

サ 専門対応が必要と考えられる相談については、専門機関に適切につないでいるか。

様式1-7 地域子育て支援拠点事業評価シート

7 利用者支援事業

目指す拠点の姿	(参考) ①2期目振り返りの課題と ②R5事業評価での課題	自己評価 (A~D)	
		法人	区
①拠点における利用者支援事業が、区民や関係機関に広く認知されている。		A	A
②相談者に寄り添い主体性を尊重しながら、個別相談に応じ、適切な支援を行っている。	①関係構築ができていない機関への周知を引き続き行う必要がある。 ②コロナ禍で広報活動が制限されていたため、今後は幅広く周知を行うと共に、各機関との関係づくりを更に進める必要がある。	A	A
③子育て家庭を支えるためのネットワークの一員として、包括的な視点を持って子ども・子育て支援に関する関係機関や地域の社会資源との協働の関係づくりを行っている。		A	B
☆			

評価の理由(法人)

(主なデータ)

相談総数	R2	R3	R4	R5	R6
	総数	680	743	774	753
内訳	新規件数	71	104	100	109
	新規割合	10.7	13.7	12.9	14.5
内訳	R2	R3	R4	R5	R6
	面接	470	425	537	540
内訳	電話	284	202	134	113
	出張	72	109	102	97
内訳					104

① 区民に広く認知されるための工夫と仕組みづくり

● 拠点内連携

- ・拠点他事業との連携により直接周知が難しい場面での周知が進んでいる。

● 区との連携

- ・区との連携により、乳幼児健診や赤ちゃん教室に訪れる区民に広く周知ができた。
- ・区役所の健診フロアに周知のためのパネルを設置した。

● 関係機関との連携

- ・関係構築ができている関係機関や地域資源を通し周知されるように依頼している。

② 個別相談

- ・ひろば巡回や出張相談など気軽に相談しやすい場と機会をつくる。
- ・相談の入り口として、「繋ぐ」と「継続」を意識しながら対応している。
- ・区、関係機関と連携が必要な対応については、支援の中での役割を相互に確認しながら対応を行っている。

③ 地域の社会資源との協働の関係づくりと課題の明確化

- ・個別相談から繋ぎ先となった関係機関や地域資源とは、関係強化を目的とした情報共有、課題の共有に努めている。
- ・「お福分けの会」に関わることから見えてくる課題を関係機関や地域資源への周知に努めている。
- ・外国人対応については、拠点外国人スタッフや、地域資源である通訳・翻訳グループ「カムオン・シェシェ」の協力を得て、丁寧に対応している。通訳アプリも活用している。
- ・社会的背景や、活動から見えてきた課題について関係機関や拠点他事業と協力し、新たなプログラム（妊娠期、父親、ダウン症等）を企画、実施している。また、障害や疾病を持つ児の父親に対する支援を地域で取り組みたいと考えており、支援の根拠を明らかにする目的で当事者のニーズ調査アンケートの作成に取り組んでいる。

評価の理由(区)

1 利用者支援事業の周知

乳幼児健診や赤ちゃん教室、こんにちは赤ちゃん訪問などの区事業で子育てパートナーを周知するチラシを配付したほか、区役所の健診フロアに周知パネルを設置した。

2 利用者支援事業の実施に係る支援

毎月のカンファレンスの実施や情報提供等を通して、個別の対応や関係機関との連携について支援を行った。

3 協働の関係づくり

拠点と区専門職との連携を強化を図るため、様々な機会で接点を持てるよう調整した。

ネットワークを活用した幅広い利用者支援事業が実施できるよう子育てパートナーと連携してアウトリーチの方法を検討中。区の母子保健専門職との連携のため、交流、情報交換の場について検討中である。

様式1－7 地域子育て支援拠点事業評価シート

拠点事業としての成果と課題			
(成果) ・利用者支援事業では、相談者の訴えに傾聴し、課題の整理や助言を行い、相談内容に応じて、最新の情報を活用し、速やかに適切な機関へ繋ぐ等切れ目のない丁寧な支援を行った。 ・関係機関等へ利用者支援事業が周知され、新規相談に繋げることができた。また、関係機関や地域資源の事業担当者からの相談が増えている。			
(課題) ・関係機関や地域資源の事業担当者が異動などにより変わっても連携、協力が継続できる仕組みつくり。			
振り返りの視点			
ア 利用者支援事業を幅広く区民や関係機関に周知しているか。			
イ 養育者に対して、気軽に相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。			
ウ 最新の情報を収集し、活用できるよう工夫しているか。			
エ 相談に対しては、傾聴に努め、ニーズを把握して対応しているか。			
オ 拠点内でおパートナーの役割を理解し、日頃から相談者を拠点内でつなぎ合うことについて、お互いの役割分担を明確にしたうえで、相談対応・利用支援を行っているか。相談者の相談内容に応じて継続対応やつなぐ必要性を判断し、対応しているか。			
カ 専門的な対応を要する相談に対して、相談内容と相談者のニーズを踏まえ、速やかに関係機関への紹介・仲介・支援依頼を行うなど、適切な対応をとっているか。			
キ 拠点内連携、関係機関への紹介・仲介後も必要に応じて役割分担を確認しながら、フォローをしているか。			
ク 相談の対応状況や支援の適切さ、拠点内外での連携状況等について、多角的な視点で振り返りや検討を行っているか。			
ケ 利用者支援事業の周知や個別相談等の取組を通じて、支援につながる新たなネットワークの構築を行っているか。			
コ 拠点のネットワークを活用し、関係機関や地域の社会資源との関係づくり・関係強化を行っているか。			
サ 把握した課題を関係機関等と共有し、拠点事業の充実、必要な支援の調整や見直し、不足する資源の調整、提案や新たな創出につなげているか。			

様式2-1 協働事業プロセス相互検証シート

協働事業プロセス相互検証シート

1 事業計画段階

【共有できしたことや認識に違いがあつたこと】

- ・日頃から定例会などを通じ子育て家庭を取り巻く状況について情報共有し、拠点と区でお互いにニーズを共有しながら事業を進めたことで、ニーズを活かした事業計画を作成することができた。
- ・拠点と区とそれぞれの特性を活かし、計画を作成することができた。

【今後改善が必要と思われること】

- ・地域の自治会・町内会や活動団体などに事業計画の段階から参加してもらうような取り組みが必要である。

2 事業実施段階

【共有できしたことや認識に違いがあつたこと】

- ・定例会のほかカンファレンスなど日頃から情報共有をしながら事業を進めることができた。
- ・拠点のプログラムに区も参加して事業を実施し、内容の改善などを協働によりブラッシュアップさせ、プログラムに反映することができた。

【今後改善が必要と思われること】

- ・子育て支援事業だけでなく関連事業や他分野の団体などの情報を広く収集し関係性を高めていく必要がある。今後はこれらの取り組みをきっかけに関連事業や他団体とも連携して地域で子育てをする環境づくりを行っていく必要がある。

3 事業の振り返り段階

【共有できしたことや認識に違いがあつたこと】

- ・事業終了後など定期的な振り返りの機会を設け、次回の事業計画に活かすことができた。

【今後改善が必要と思われること】

- ・今後も拠点と区と共通認識を持って事業実施ができるよう引き続き情報共有、課題の共有など丁寧に行って行く必要がある。
- ・協働事業として得られるメリットをより意識して事業を進めていく必要がある。